

保健学科

看護学専攻 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部保健学科のディプロマポリシーに掲げた「対象の全人的理解」、「科学的根拠に基づいた判断」、「感性、知識、技術の獲得」、「チームの一員としての協働活動能力」、「文化の多様性の理解と国際的視野に基づく保健・医療活動の理解」、「幅広い教養と探求的、創造的思考に基づく課題解決能力」の各能力を備えた高度な保健医療専門職者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを整備し、授業シラバスに明示された学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度に基づいて成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康と生活を支援することができるよう、「環境・健康」などの教養科目や、「健康科学概論」、「リハビリテーション概論」、「生命倫理学」、「臨床心理学」、「新入生ゼミナール」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「人体の構造と機能Ⅰ(解剖学)」、「人体の構造と機能Ⅱ(生理学)」、「人体構造機能学実習」などの授業を通して全人的な視点を修得する。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「人体の構造と機能Ⅲ・Ⅳ(症候学)」、「臨床診断治療学」、「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」、「成人看護学概論」、「成人看護健康論Ⅰ(内科学)・Ⅱ(外科学)」、「老年看護学概論」、「小児発達看護学概論」、「小児発達健康論」、「母性看護学概論」、「母性看護健康論」、「精神看護学概論」、「精神看護健康論」、「実践保健統計」などの授業を通して、看護および保健・医療の基礎としての概念を学ぶ。
3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学Ⅰ」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」などの保健学科共通科目を設置している。看護専攻専門科目としては、人体の解剖や生理に関する基礎科目、「薬理学」に加え、「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」、「コミュニケーション方法論」、「看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「看護管理論」、「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」、「老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「小児発達看護方法論」、「小児の発達障害と看護」、「母性看護方法論」、「ヒューマン・セクシャリティ」、「親子関係論」、「精神看護方法論」、「在宅看護学概論」、「在宅看護方法論」、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護支援論Ⅰ」、「災害看護」、「がん看護」、「専門看護特論」などの各看護領域の科目および関連領域の医学的知識を修得する科目、並びに「看護学実習」、「統合実習」を通して、看護師としての知識・技術を修得する。
また、さらに選択によって、「公衆衛生看護アセスメント論」、「公衆衛生看護支援論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「学校・産業看護論」、「疫学・保健統計」、「公衆衛生看護管理論」並びに「公衆衛生看護学実習」を行うことにより保健師としての知識・技術を修得し、「助産学概論」、「助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」、「助産管理」並びに「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を行うことにより助産師としての知識・技術を修得する。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を修得するため、「新入生ゼミナール」や「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。各領域での看護の専門知識・技術の修得と共に専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文・社会」「言語」などの教養科目や、「国際医療協力論」、「海外研修ゼミナール」などの保健学科共通科目を設置している。看護学専攻専門科目としては、「国際看護論」などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然・技術」などの教養科目を設置しており、選択することができる。また看護学専攻専門科目としては、「看護教育学」、「看護研究概論」、「看護研究Ⅰ・Ⅱ」などを通して、主体的な問題解決能力を修得する。

検査技術科学専攻 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部保健学科のディプロマポリシーに掲げた「対象の全人的理解」、「科学的根拠に基づいた判断」、「感性、知識、技術の獲得」、「チームの一員としての協働活動能力」、「文化の多様性の理解と国際的視野に基づく保健・医療活動の理解」、「幅広い教養と探求的、創造的思考に基づく課題解決能力」の各能力を備えた高度な保健医療専門職者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを整備し、授業シラバスに明示された学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度に基づいて成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「環境・健康」などの教養科目や、「健康科学概論」、「生命倫理学」、「臨床心理学」、「新入生ゼミナール」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「臨床医学総論」などの授業を通して全人的な視点を修得する。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「病理組織解析学」、「臨床検査解析学Ⅰ」、「臨床検査総論Ⅰ」、「病理病態学Ⅱ」などの授業を通して、科学的根拠に基づいた臨床検査の在り方を学ぶ。
3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学Ⅰ」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」などの保健学科共通科目を設置している。基礎医学科目としては、「生理学」、「系統解剖学」、「組織学」、「救急蘇生学演習」などや専攻専門科目としての「生理機能検査学」、「循環機能検査学」、「遺伝子検査学」、「病原体検査学」、「免疫検査学」、「血液検査学」、「病態化学検査学」、「病理検査学」などとそれらの実習科目を通じて、臨床検査技師としての感性や知識・技術を修得する。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を修得するため、「新入生ゼミナール」や「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「臨床検査総論Ⅰ」、「臨床検査総論Ⅱ」、「臨床検査管理学」、「検査情報の処理と管理」および「臨地実習」などの授業を通して、医療専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文・社会」「言語」などの教養科目や、「国際医療協力論」、「海外研修ゼミナール」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「ゼミナール」での英文論文の抄読などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然・技術」などの教養科目や「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「卒業研究」や「ゼミナール」などでの演習活動を通して、能動的な問題解決能力を修得する。

理学療法学専攻 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部保健学科のディプロマポリシーに掲げた「対象の全人的理解」、「科学的根拠に基づいた判断」、「感性、知識、技術の獲得」、「チームの一員としての協働活動能力」、「文化の多様性の理解と国際的視野に基づく保健・医療活動の理解」、「幅広い教養と探求的、創造的思考に基づく課題解決能力」の各能力を備えた高度な保健医療専門職者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを整備し、授業シラバスに明示された学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度に基づいて成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「環境・健康」などの教養科目や、「健康科学概論」、「リハビリテーション概論」、「生命倫理学」、「臨床心理学」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法概論」、「地域理学療法」、「地域理学療法実習」などの授業を通して全人的な視点を修得する。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」、「栄養学」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法評価法」、「運動器疾患の理学療法」、「神経疾患の理学療法」、「卒業研究」等の授業を通して、科学的根拠に基づいた理学療法(Evidence-based Physical Therapy, EBPT)の概念と手法を学ぶ。
3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学Ⅰ」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」などの保健学科共通科目を設置している。理学療法学専門科目としては、「生理学」、「系統解剖学」、「運動学」、「救急蘇生学演習」などの基礎医学科目、「整形外科学」、「臨床神経学」などの臨床医学科目、「運動器疾患の理学療法」、「神経疾患の理学療法」などの専攻専門科目を通して、理学療法士としての感性や知識・技術を修得する。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を修得するため、「新入生ゼミナール」や「リハビリテーション概論」、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法概論」、「地域理学療法」などの講義や、「臨床基礎実習」、「臨床実習」などの実習を通して、専門職者としての自己責任やチームの一員としての協働活動の理念と実際について学ぶ。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう、「人文・社会」「言語」などの教養科目や、「国際医療協力論」、「海外研修ゼミナール」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「卒業研究」での英文論文の抄読などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然・技術」などの教養科目や「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設置している。専攻専門科目としては、「理学療法研究法」や「卒業研究」などでの演習活動を通して、能動的な問題解決能力を修得する。

作業療法学専攻 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部保健学科のディプロマポリシーに掲げた「対象の全人的理解」、「科学的根拠に基づいた判断」、「感性、知識、技術の獲得」、「チームの一員としての協働活動能力」、「文化の多様性の理解と国際的視野に基づく保健・医療活動の理解」、「幅広い教養と探求的、創造的思考に基づく課題解決能力」の各能力を備えた高度な保健医療専門職者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを整備し、授業シラバスに明示された学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度に基づいて成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して人々の健康を支援することができるよう、「環境・健康」などの教養科目をはじめ、「リハビリテーション概論」、「生命倫理学」、「健康科学概論」、「臨床医学概論」、「臨床心理学」、「新入生ゼミナール」などの保健学科共通科目を設けている。また、作業療法学の専門科目として「作業療法概論」、「社会生活自立支援論」、「作業療法見学実習」、「地域作業療法学」、「地域作業療法学実習」などを設置し、専門領域の概要を通して臨床医学における全人的な視点を修得する。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、「公衆衛生学」、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設けている。また専門科目として、身体・精神・発達領域ごとの「作業療法評価学実習」や、「基礎作業学」、「日常生活支援論」、「作業解析学実習」、「作業療法研究法」、「事例研究法演習」などを通して医療実践における作業療法学の概念と手法を修得する。
3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、「生化学」、「栄養学」、「病理病態学Ⅰ」、「微生物と感染」、「遺伝と病気」などの保健学科共通科目を設けている。作業療法学専門科目としては、「生理学」、「組織学」、「系統解剖学」、「中枢神経解剖学」、「肉眼解剖学実習」、「運動学」、「人間発達学」、「内科学」、「整形外科学」、「精神医学」、「小児科学」、「臨床神経学」、「高次脳機能障害学」、「救急蘇生学演習」などの基礎・臨床医学科目を設けている。また、作業療法学専攻の専門科目として、身体・精神・発達領域ごとの「作業療法治療学」、「老年期作業療法学Ⅰ・Ⅱ」、「義肢装具学」、「生活支援機器論」をはじめとした科目を通して、作業療法士としての感性や専門的知識、技術などを修得する。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるよう「新入生ゼミナール」や「リハビリテーション概論」、「チーム医療演習」などの保健学科共通科目を加えた総合的な学習の機会を設けている。専攻専門科目としては、「作業療法治療学実習」、「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」などの臨床実習を通して、専門職としての自己責任を自覚したチーム医療の実践メンバーとしての協働活動の理念と実際について修得する。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性和その方法を理解できるよう、「人文・社会」「言語」などの教養科目や、「国際医療協力論」、「海外研修ゼミナール」などの保健学科共通科目を設けている。専攻専門科目としては、「卒業研究」での英文論文の抄読などを通して、国際的な視野に基づいた保健・医療活動について考究する。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然・技術」をはじめとする教養科目や、「医療社会学」、「保健・医療・福祉政策論」などの保健学科共通科目を設けている。専攻専門科目としては、「作業療法研究法」、「事例研究法演習」、「認知障害治療学Ⅰ・Ⅱ」、「身体障害作業治療学特論」、「精神障害作業治療学特論」、「作業療法管理学」などを通して、作業療法士としての能動的な問題解決能力を修得する。